

第41回 高知女子大学看護学会報告

高知女子大学看護学会企画委員長 田 井 雅 子

メインテーマ：看護を可視化する方略

第41回高知女子大学看護学会は『看護を可視化する方略』をメインテーマに、平成27年7月18日（土）に高知県立大学池キャンパスにて開催された。

当日は卒業生・修了生をはじめ県内外の施設から221名の皆様の参加をえて、活気ある学術集会となった。

現在臨床現場では、根拠に基づく看護実践が重視され、その一方法として看護の実践モデル、ケアガイドライン、ケアプロトコルなどの開発が進んでいる。このようなツールは看護実践の可視化の一例といえる。そして、これらのツールを活用することによって、現場の看護実践の質の向上や、看護職の意識の変化がみられたりしている。このテーマのもと、様々な立場の看護職者の参加により、看護を可視化する方略について多様な意見交換の場が提供できると考え、このテーマを取り上げた。午前は、加藤令子先生を講師に「看護の可視化がもたらすもの－災害時の要配慮者を対象としたパッケージ開発の研究から見えてきたもの－」というテーマで講演会を開催した。午後は、看護の可視化について様々な現場から話題提供をしていただき、7つのワークショップを開催した。

学会長挨拶

講演に先立ち、野嶋佐由美学会長から挨拶があった。人口構造の変化や気候変動の問題など、看護を取り巻く問題が厳しくなる中、今年度は「看護を可視化する方略」をテーマとし、看護の可視化について皆様と考えたいと語られた。看護の可視化は個人として、あるいは患者さんとの間で、また社会に対して考えていくことが必要であり、午前中の加藤令子先生のご講演、午後のワークショップを通して、皆さまと看護の可視化について意見交換を行いたいと述べられた。また、平成27年3月にご逝去された、高知女子大学家政学部衛生看護学科1期生の野島

幸代先生に対して、長年に渡り本学会活動にご尽力を賜ったことに感謝が述べられた。



来賓の挨拶

高知県看護協会会長 宮井千恵氏、高知県立大学学長 南裕子氏より、第41回高知女子大学看護学会開催のお祝いと今後の学会の発展への期待が述べられた。

講演会：10:20～12:00

共立女子大学看護学部教授の加藤令子先生に「看護の可視化がもたらすもの－災害時の要配慮者を対象としたパッケージ開発の研究から見えてきたもの－」のテーマでご講演いただいた。講演の内容については、本学会誌をご参照いただきたい。アンケートでは、「今自分が関わっていることにひきつけて考えられ、頑張ろうという気持ちになった」「地域防災に看護がどのような力をもたらすのかがよくわかった」「その人のもつ力を活かすという普遍的なテーマが伝わり心に響いた」といった意見がよせられていた。



ワークショップ：13:30～15:30

今年は、7つのワークショップが開催された。どのワークショップも盛況で、アンケートでは、「色々と学べて看護に活かしたい」「現場で活かしていけるように努力していきたい」「今まで

悩んだことの解決や視野が広がる機会になった」「変革者であるCNSとしての技術ややくわりについて考えることができた」などの意見がよせられた。詳細は、本学会誌を参照いただきたい。